

霧島山

新燃岳

火山活動度レベル

レベル 2 (やや活発な火山活動) で経過しました。

概況

火山性地震は消長を繰り返しながら、次第に少なくなっています。

・火口や噴気地帯の状況

監視カメラでは、火口縁を越える噴気は観測されませんでした。

・地震・微動活動の状況(表 1、図 2、図 6)

火山性地震は、消長を繰り返しながら、次第に少なくなっています。地震の震源は、新燃岳火口付近の深さ 0 ~ 4 km に求まりました。

火山性微動は発生しませんでした。

・地殻変動の状況(図 7)

GPS 連続観測による地殻変動観測では、火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

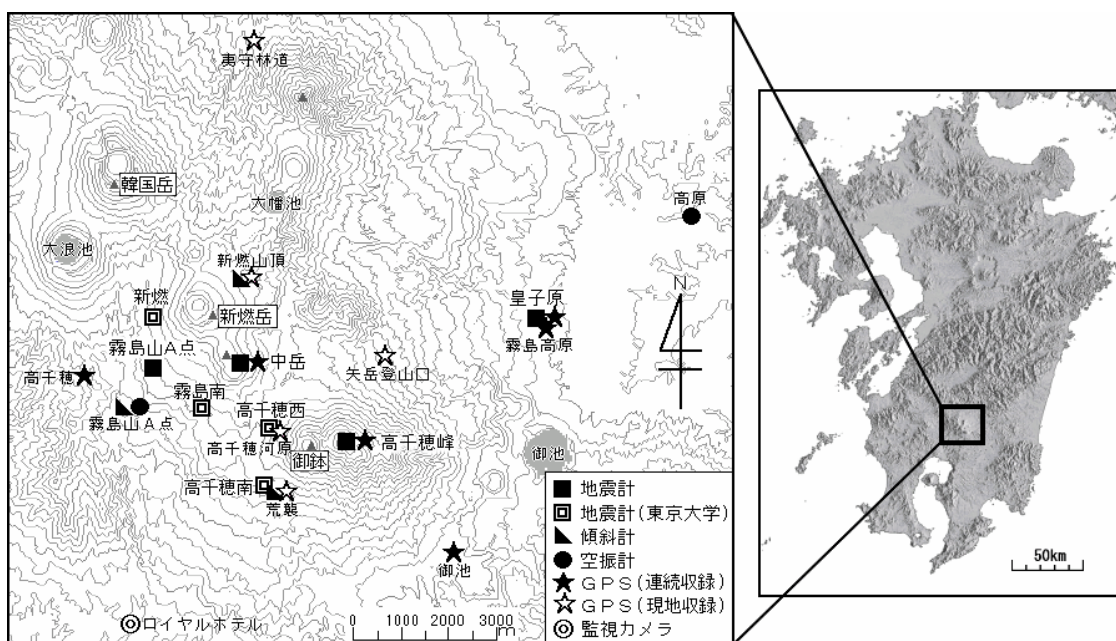


図 1 霧島山広域観測点位置図(気象庁監視)

この資料は気象庁の他、東京大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等を利用して作成しています。また、地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図 50mメッシュ(標高)、25000 分の 1 の地形図を使用しています(承認番号: 平 17 総使、第 503 号)。

表 1 最近 1 年間の新燃岳付近を震源とする地震・微動回数(2005 年 5 月～2006 年 4 月)

2005～2006 年	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月
地震回数	4	1	5	4	1	5	6	2	181	275	210	53
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	0	0

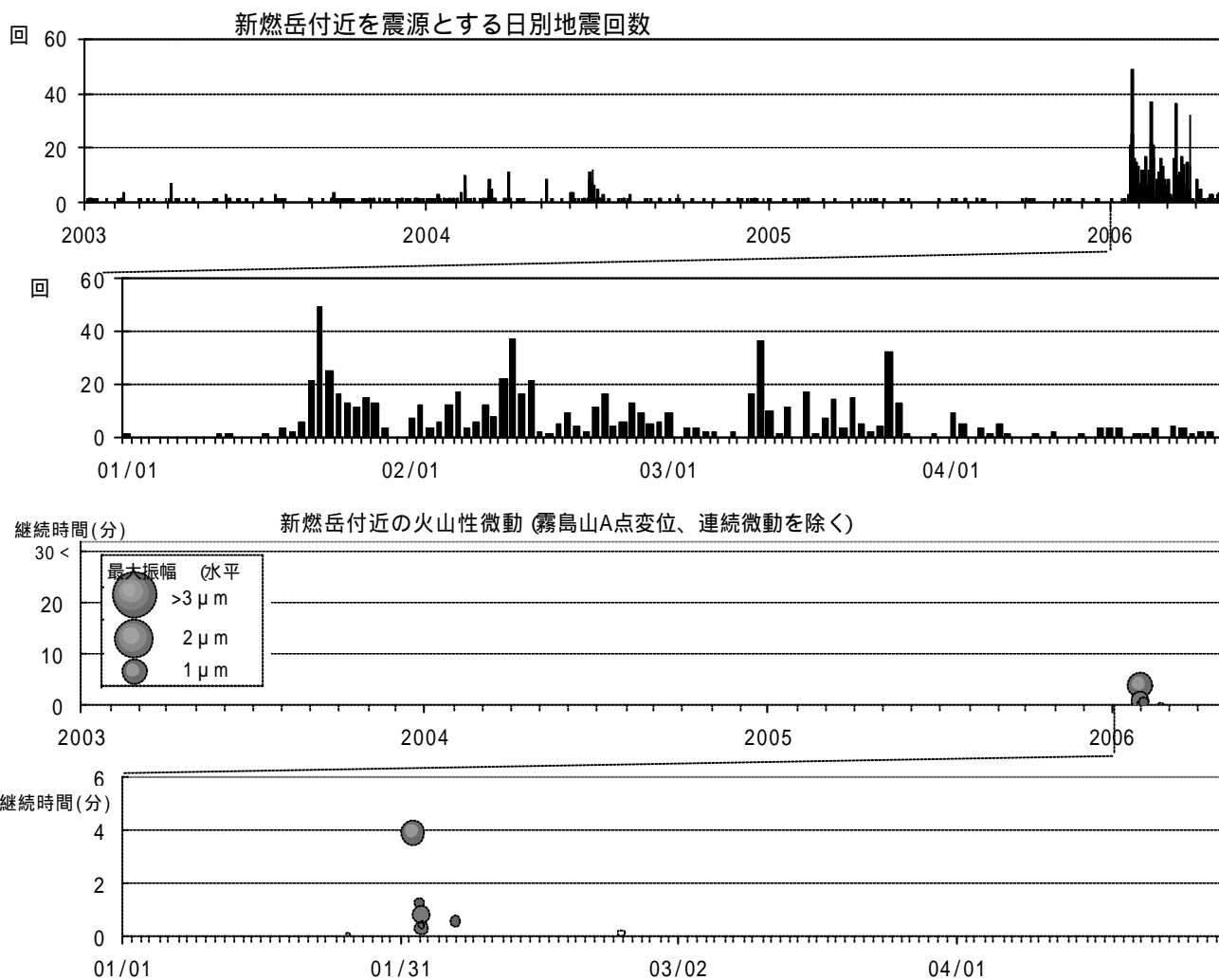


図 2 新燃岳付近の火山活動経過図(2003 年 1 月～2006 年 4 月、下段は 2006 年 1～4 月)
 火山性地震は、消長を繰り返しながら、次第に少なくなっています。

御鉢

火山活動度レベル

レベル 2 (やや活発な火山活動)で経過しました。

概況

火山性微動が観測されるなど、やや活発な状態で経過しました。

・火口や噴気の状況(図 5 の)

監視カメラでは、火口縁を越える噴気は観測されませんでした。

・地震・微動活動の状況(表 2、図 5 の 、 、図 6)

火山性地震は少ない状態で経過しています。

継続時間が短く振幅の小さな火山性微動を 2 回観測しました。

・地殻変動の状況(図 7)

GPS 連続観測による地殻変動観測では、火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

表 2 御鉢付近を震源とする最近 1 年間の地震・微動回数(2005 年 5 月～2006 年 4 月)

2005～2006 年	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月
地震回数	0	4	4	3	1	0	1	1	3	5	3	4
微動回数	0	0	0	0	0	1	0	0	10	10	6	2

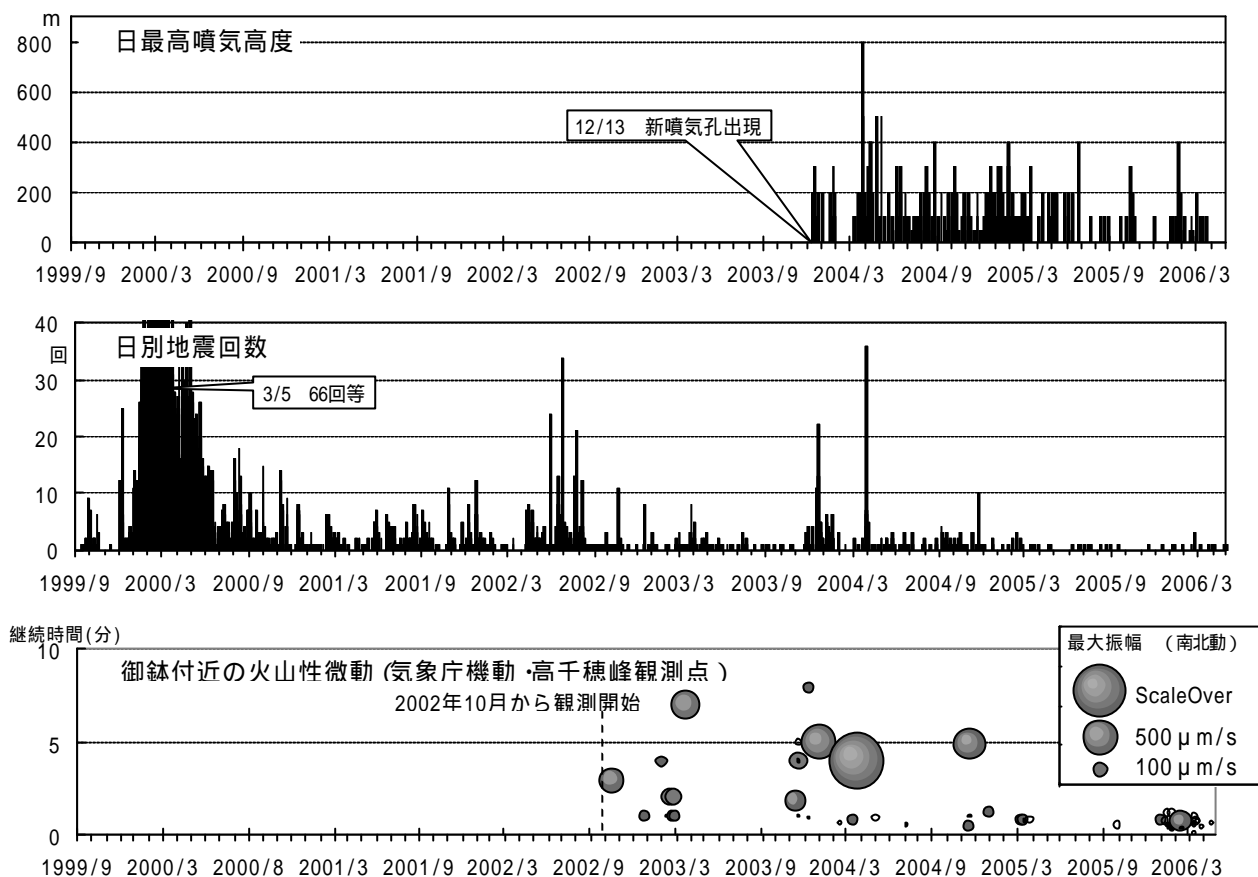


図5 御鉢付近の火山活動経過図(1999年9月～2006年4月)

監視カメラでは、噴気は観測されませんでした。

火山性地震は少ない状態が続いています。

4月の火山性微動の発生は2回(3月は6回)で、いずれも継続時間が短く、振幅の小さい微動でした。

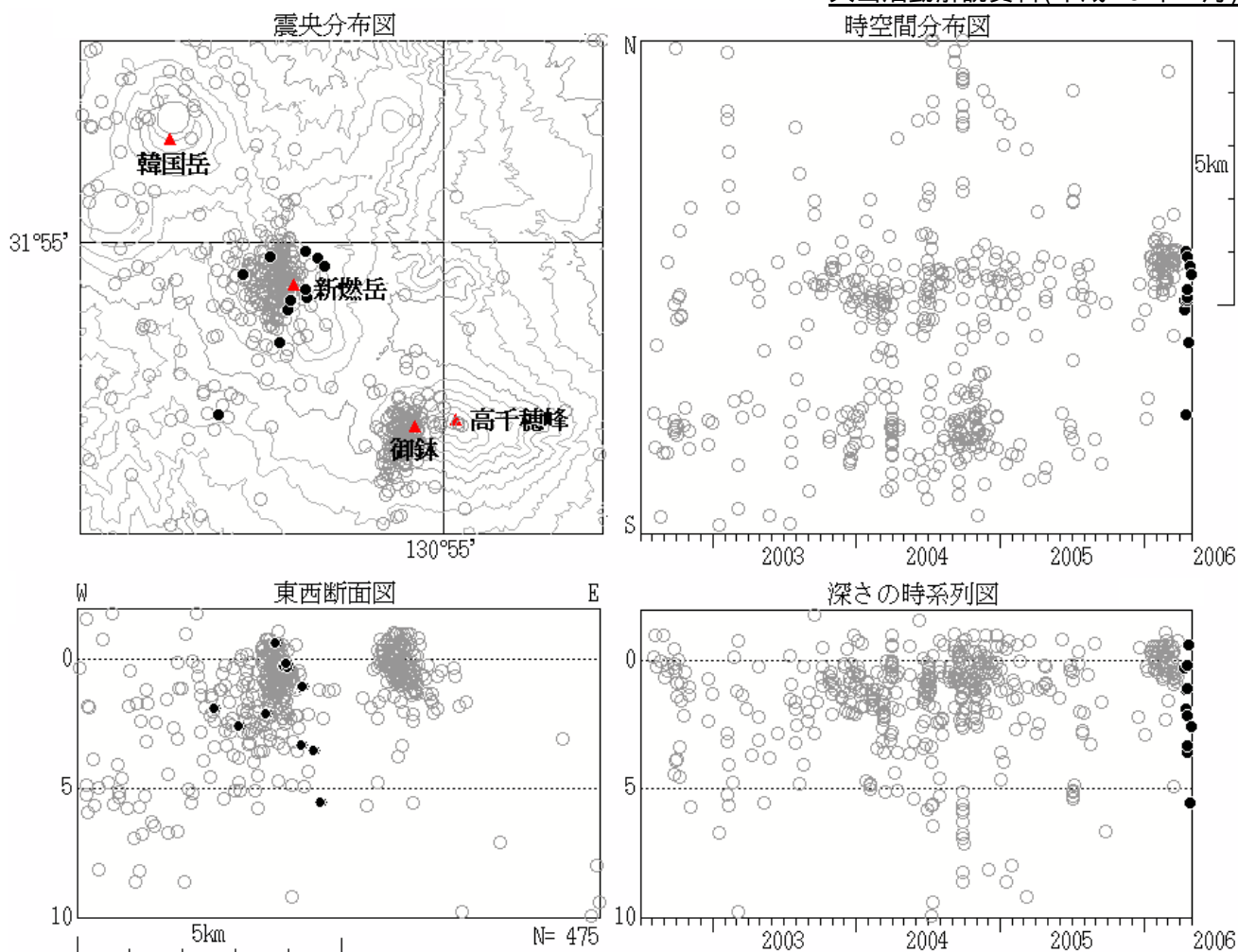


図6 震源分布図(2002年7月～2006年4月)

火山性地震の震源は、新燃岳火口付近の深さ0～4kmに求まりました。

今期間の震源は黒丸で表示しています。

本資料は、気象庁データの外、東京大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを用いて作成しています。本資料の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を利用しています。

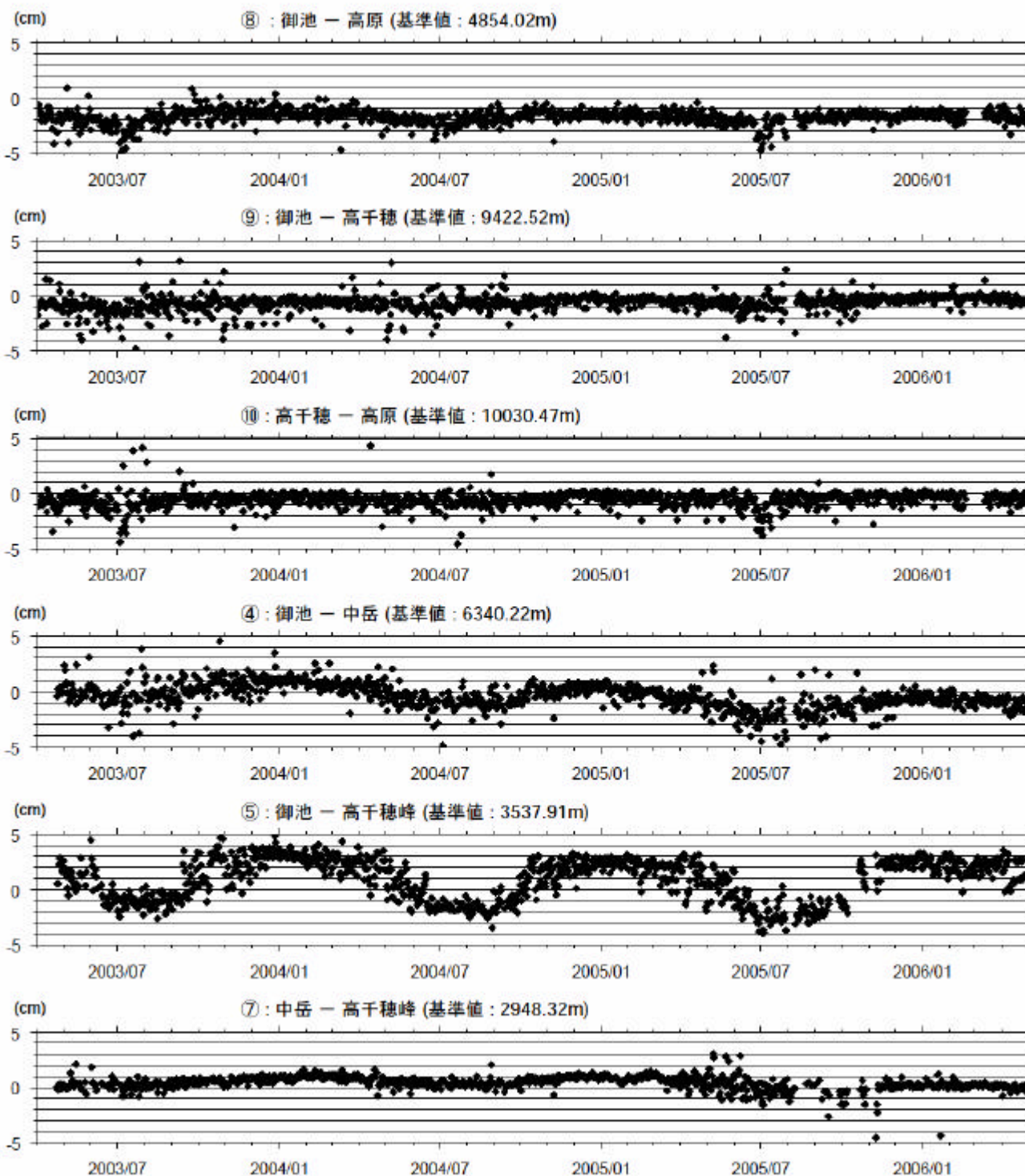


図7 GPSによる基線長変化(2003年4月～2006年4月)

火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

GPS連続観測点(高千穂河原など)は現地収録型に変更したので、4月のデータは入手していません。これからは3～4ヶ月毎にデータ回収を行い、解析結果を公表します。

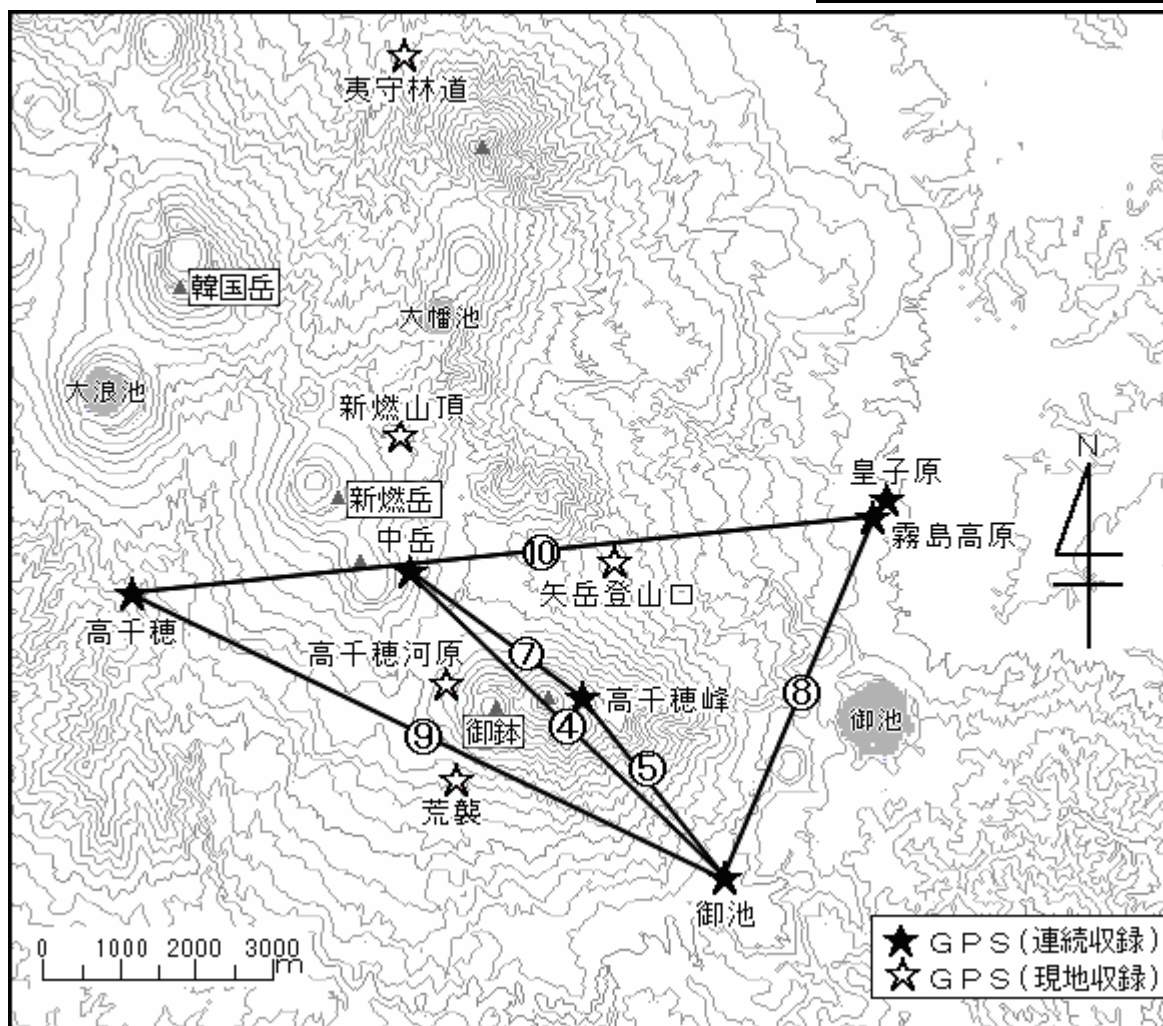


図 8 霧島山の GPS 連続観測基線図